

サービスマーケティングを通しての学び

活動先：NPO 法人 ふわり

クラス：村上 徹也 先生

1. 自分の成長と気づき

私は、4月からのサービスマーケティングでの学びを通して、これから現場や大学でどう行動し、考察し学習に結びつけるかについて理解することができ、大きく成長できたと実感している。具体的に学んだことは、NPO法人がどういったものなのかを知る段階から始まり、NPO法人の方々と直接お会いして話すことにより、実際のNPO法人での活動が幅広い事業で展開されていると分かった。それにより自分の中の関心ある分野が広がっていった。様々な場所で、様々な立場の人々と出会い、対話したことで、いろいろな考え方や価値観を知ることができ、自己の探究心につながった。

それらの経験や学びをもちかえり、クラス内で話し合うことで、より掘り下げたところまで考えが深まり、また新しい発見もあった。最初のうちは、それをどう人にうまく伝えるかについて難しいところもあったが、発言の機会が多くディスカッションを行なっていく間に、徐々に慣れてきた実感がある。自己課題を考えていくにあたって、人との話し合いの場で、他人の意見はとても重要であると感じた。自分の考えだけで事を進めても、どこかで方向性がぶれていってしまう。お互いの考えを話し合い、意見の相違などを通して考えや、物の見方を比較することで、ようやく自己の課題や目標などが少しずつはっきり見えていくものだと感じた。

活動のたびに、新しく出会う人がいて、お互いに自分の事を話すといった経験が、サービスマーケティングでは多く思えた。大学での授業でも、活動先でもそういった機会が多く、人と対話する機会は、いろいろな情報や学びを身につけるチャンスであるということを実感した。社会の中で学習するという点においては、責任感は必須である。私も活動中、頭でわかっているが、職員の方と徐々に仲良くさせてもらい気が抜けていることもあった。しかし職員の方の現場での切り替えのできた臨機応変な働きをしており、これが学生と社会人の違いであると痛感した。やはり、学生のうちからアルバイトやボランティアなどを通じて、社会人の方と関わりをもち、学生の立場から少しずつ抜け出しておくことも必要ではないかと感じた。

シンポジウムに参加させてもらったときには、社会福祉分野で活動されている有名な方々のお話を聞き、分科会では直接お話する機会もあった。1年間、サービスマーケティングを通して出会いが自己の成長になること、「出会い」のすばらしさを知った。

2. この活動を通して活動先が取り組んでいる社会の関わりや気づきから、活動を通して見えてきた社会課題について

この活動を通して活動先が取り組んでいる社会の関わりや気づきから、活動を通して見えてきた社会課題について考察や提案をする私は、地域の夏祭りの参加を通して、どうし

たら、社会的に弱い立場の人が地域で当たり前で生活していけるのかについて考察した。

まず地域によって、やはり障害を持った人が認められていないところもあると感じた。そういった地域で少しずつ地域福祉を広める活動をすることで、理解されてきた地域もたくさんあるということがわかった。

ただ、12月の活動で、シンポジウムがあり、さまざまな分野の福祉で活動する人たちの中に参加させてもらい、それぞれ考え、意見交換することで課題を見つけ出していた。その話し合いの中で、障害者福祉分野に関わらず、社会問題の裏側を見ていくと排斥的になっているということがわかった。例えば、給食費を払わない親が増えていることが、問題となっているが、中には、外国人の親もいて、学校から来る書類が読めないなどを理由に払えていない人もいる。そういった人は、自分からは、どこにもつながっていくことができない。どうしようもない状態にある人が、そこで暮らしていくには、その人が暮らす地域で助け合っていくしか方法がないと考える。

やはり、現場と政策を分離した場合相互不信に陥ると考える。それは、現場がどうなっているか、しっかり把握しないまま、制度・政策や常識に捉われてはいけないということである。社会で困っている人の現状をしっかりと見て、制度・政策のやり方を見直すべきだと思う。それが地域の活性化にもつながっていくのである。そして、いろいろな世代や国の男女が支援に立つことによって、必要なケアが行き届きやすく、バリエーションがあれば様々な問題に対応できるということが考えられる。話し合いをして、何年も先を見た福祉を考えていかなければならないと感じた。その糸口になる活動を、企画・運営していくことが NPO 法人の魅力だと感じた。

2010年6月2日(水) ●学内事前打合せ会

